

生物多様性影響評価検討会での検討の結果

名称：ステアリドン酸産生及び除草剤グリホサート耐性ダイズ

(改変 *Pj.D6D*, 改変 *Nc.Fad3*, 改変 *cp4 epsps*, *Glycine max* (L.) Merr.)

(MON87769×MON89788, OECD UI: MON-87769-7×MON-89788-1)

第一種使用等の内容：食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為

申請者：日本モンサント株式会社

(1) 生物多様性影響評価の結果について

ステアリドン酸産生及び除草剤グリホサート耐性ダイズ(以下「本スタック系統」という。)は、

改変 Δ6 デサチュラーゼをコードする改変 *Pj.D6D* 遺伝子及び改変 Δ15 デサチュラーゼをコードする改変 *Nc.Fad3* 遺伝子が導入されたステアリドン酸産生ダイズ (MON87769)

改変 CP4 EPSPS 蛋白質をコードする改変 *cp4 epsps* 遺伝子が導入された除草剤グリホサート耐性ダイズ (MON89788)

を用いて、交雑育種法により作出されたものである。

本スタック系統に導入された遺伝子により産生する改変 Δ6 デサチュラーゼ、改変 Δ15 デサチュラーゼ及び改変 CP4 EPSPS 蛋白質は、基質特異性が高く、相互に作用して特異性を変化させることはないと考えられた。また、改変 Δ6 デサチュラーゼ及び改変 Δ15 デサチュラーゼと、改変 CP4 EPSPS 蛋白質の関与する代謝経路は互いに独立しているため、それぞれの親系統由来の発現蛋白質が相互作用を示す可能性は低いと考えられた。

これらのことから、各親系統由来であるこれらの蛋白質が本スタック系統の植物体内において機能的な相互作用を及ぼす可能性は低く、親系統が有する形質を併せ持つ以外に評価すべき形質の変化はないと考えられた。

なお、各親系統の次に掲げる評価項目についての検討は既に終了*しており、当該検討の結果、各親系統を第一種使用規程に従って使用した場合、我が国における生物多様性に影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されている。

- (ア) 競合における優位性
- (イ) 有害物質の産生性
- (ウ) 交雑性

* 各親系統の検討の結果は以下より閲覧可能

- MON87769

http://www.bch.biodic.go.jp/download/lmo/public_comment/H23_9_27_MON87769sp2.pdf

- MON89788

https://ch.biodic.go.jp/bch/OpenDocDownload.do?info_id=1003&ref_no=2

(2) 生物多様性影響評価を踏まえた結論

以上より、本スタック系統を第一種使用規程に従って使用した場合に、我が国における生物多様性に影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断した。